



【星城高等学校卒業式(昭和40年代)】

特集

卒業生、星城を語る

～社会で輝く！！ 星城生たち～

学園アラカルト／平成28年度学園財務情報

星城懇話会総会／星城大学公開講演会

卒業生、星城

を語る

～ 社会で輝く!!
星城生たち～

Entory1 卒業生と大学教員の夢のコラボ☆「夢の腰サポーター」



◆星城高等学校 1 回生
株式会社吉見製作所
代表取締役社長
吉見幸春 さん

吉見さんは、星城高校1回生。ニコニコと穏やかに話されるその奥に、形状記憶合金の分野では国内トップの技術力、開発力を誇り、従業員11名という小さな会社ながら、他社ではできない技術力が評価され、海外の大手航空機メーカーや国内の航空宇宙関連機関、大学などと共同研究の契約を結んでいるという強い自信がみなぎっています。

【数々の賞状とともに】



夢のコラボ☆「夢の腰サポーター」が「ウェルネスバレーブランド」に認定!

吉見製作所が在る大府市では、健康・医療・福祉・介護施設が集積している「あいち健康の森」とその周辺地区をウェルネスバレーと称し、この地区において健康長寿の一大拠点の形成を目指す「ウェルネスバレー構想」を掲げています。

平成29年2月、星城大学リハビリテーション学部の太田進准教授と吉見製作所などが共同開発した「夢の腰サポーター」が健康長寿関連の特長ある商品として「ウェルネスバレーブランド」に認定されました。

「夢の腰サポーター」は形状記憶合金だからできた新しい装具で、屈曲時の腰部負担を軽減し、姿勢維持・ガードに役立つという、これまでとは全く異なる、超弾性のバネ効果を活かした形状記憶サポーターです。

体への密着面積が少なくムレが起きにくい形状で、介護ばかりでなく、立ち仕事からデスクワーク、農漁業、製造業など幅広い活用場面が考えられ、今後の製品の普及が期待されます。

日本は今、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会となっています。「夢の腰サポーター」は、星城高校の卒業生と星城大学の教員が有する知的財産が見事に結晶した、まさしく夢のコラボレーションです。



【夢の腰サポーター】

◇ 星城高校との出会い ◇

吉見さん、会社員時代は米国駐在も経験し、英語に堪能で、今でも毎日英語の勉強を続けているとのこと、英語の書き方、考え方の講義までしたことがあるそうです。

しかし、中学時代は英語が飛びぬけて苦手で、うまく英語を教えてくれればできるはずなのに、と思っていたそうです。星城に入学したのも、特別英語の授業に力を入れスタートしますとの鎌徳先生からの誘いで、中学の担任の英語の先生から推薦も受けたので行くことに決めただ、と笑いながら話してくださいました。

◇ 星城高校での思い出 ◇

高校は創立直ぐの1回生。当初は先輩、後輩もおらず、学校生活は大変家族的で自由な雰囲気だったそうです。校長だった鎌徳先生は気さくに生徒に話し掛けられ、吉見さんに君は何をやりたいんだと聞かれたので、吉見さんが中学生の時やっていた吹奏楽をやりたいと答えると、学校で楽器を揃えてくださり、結局、吉見さんは初代のプラスバンド部の部長を務められたとのことでした。また、高校時代の自由な発想ができる環境が、人がやらないことにチャレンジしていくという、今の姿の原点となっているとも述べられました。

◆卒業後、形状記憶合金の研究

吉見さんは、大学卒業後、大同特殊鋼グループに入社。米国現地法人設立準備委員として約3年半の米国勤務を経て帰国、30歳の時に父親が創業した株式会社吉見製作所に入り、昭和61年から代表取締役を務められています。

もともと吉見製作所は大手の下請けとして電気金具製造をしていましたが、親会社からの無理難題を聞いてやっていくことが嫌で、下請けからの脱却を決断。研究していた形状記憶合金に活路を求め、開発・生産に取り組んだとのこと。

現在、吉見製作所は、主に形状記憶合金を用いた製品の材料開発から量産までを手掛け、手術用の特殊な器具や治療用の装具、リハビリ器具など医療介護品の研究開発や航空宇宙分野での共同研究、更には釣具商品では自社ブランド製品を市場に提供しています。

☆☆☆ 「夢の腰サポーター」誕生秘話 ☆☆☆

～星城大学リハビリテーション学部 太田進准教授に聞きました!～

「夢の腰サポーター」は、もともとは吉見さんが作成した介助補助具エプロンからスタートしました。

介護動作を楽にするため、エプロンの横に形状記憶合金を入れたものですが、もっと介護に役立つようにと、介護される方を立ち上げさせ、ベッドから車椅子に移乗することをイメージして、多くの試作品を作りました。

介護する側が楽と感ずるようになるにはかなりの量の形状記憶合金が必要となり、そうすると逆に他の動作を制限することにもなります。

そのようなことから、介助補助具をどんどんシンプルに変えていき、コルセットのような形としました。

できあがってみると、このような形のコルセットはなく、動作を制限することなく、強くアシストするのでもなく、腰に手を当てられているような感じで、いろいろな動作が楽にできる、そのような製品に仕上がりました。

今後はこの「夢の腰サポーター」の効果をしっかり検証していくこと、これが産学連携研究の私の役割と考えています。

【(左右)「夢の腰サポーター」をつけた太田進准教授】



名古屋石田学園では、今後とも、地域住民、産業界、関係機関の方々との交流や連携により、「健康づくり」、「医療」、「福祉」、「産業振興」など様々な分野において、様々な取組みを推進していきたいと考えております。

Entory2 対談「教壇に立つ、星城卒業生」

共に、星城高校、星城大学を卒業し、現在は教師として教壇に立つ山内孝英さんと野場惇平さん、この若い教師2人に星城大学にお集まりいただき、盧経営学部長司会の下、後輩へのメッセージなどを語っていただきました。



山内 孝英さん



野場 惇平さん



司会：盧聰明経営学部長



まずは簡単な自己紹介をお願いします。



星城高校43回生、星城大学7期生で、社会人6年目です。大学卒業後、中学の常勤講師を経て、去年、念願の教諭となり、東海市立平洲中学校で保健体育を教え、2年生の担任をしています。



星城高校45回生、星城大学9期生で、大学では盧先生のゼミでした。大学卒業後、台湾東海大学大学院に進学、修士号を取得し、今年度から星城大学経営学部で助教を勤めています。



高校、大学での生活、思い出を聞かせてください。



星城高校時代はキャプテンとして柔道に明け暮れました。柔道を続けたかったし、教師への夢も持っていたので大学へ進学したいと思っていました。経済的には苦しかったのですが、星城大学は奨学制度が整っているのが、教師への夢が叶えられると思い進学しました。大学では高校で果たせなかった全国大会にも出場することができました。



星城高校でのホームステイの受け入れが、初めての外国との接点でした。留学を希望していたので、留学制度が整っている星城大学に進学し、2年生のとき交換留学で台湾に留学しました。海外との交流の中、国際マーケティングの研究をしたいと思い、大学院に進学し、大学の教師になろうと思いました。



お2人も教師への夢を叶えられたわけですが、どんな生徒・学生を育てていきたいか、また、後輩へのメッセージをお願いします。



教師となることをずっと夢見て、教諭となりましたが、その道は決して簡単ではありませんでした。採用試験には何度も落ち、そのたびにくじけそうになりました。常に努力を重ねて行くことの大切さ、プラス思考で前向きに自信を持って進んで行けば、道は必ず拓けるということの後輩や生徒に教えて行きたいと思います。



まだ、研究者・教員となって1年目ですが、自分の学生時代と比べても、今の学生は情報量が多いのですが、判断力、積極性に欠けているように思います。海外を知ること、視野が広がり、逆に日本のことが良く見えることもあります。もっともっと目標を持って積極的に海外にチャレンジして行って欲しいと思います。



本日は大変お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

2人も高校、大学を星城で過ごした星城生、教えられる側から教える側に立ったことで、益々母校への愛情がほとばしった、7月の猛暑に負けない、熱い熱い対談でした。

Entory3 星城高等学校 1 回生 横山毅佚朗さん 勲章を受章



【写真左から：石田理事長、横山さん、徳倉さん、関口さん】

7月15日、瑞宝双光章を受章された星城高等学校1回生の横山毅佚朗さんが、同窓生の徳倉英成さん(元同窓会会長)、関口幸一さん(元同窓会副会長)と共に、母校を訪れ、石田理事長に叙勲の報告をされました。

愛知県に奉職された横山さんは、長年、愛知県の病院や総合保健センター等で診療放射線技師として活躍され、保健衛生の向上に功績があったとして、春の叙勲で勲章が授与されたものです。

石田理事長との対談では、高校時代の思い出話に花が咲きました。運動場に水が溜まって運動ができなかったので駆け出されてみんなで暗渠を掘った。その褒美に遠足に連れて行ってやると言われて喜んでいたら比叡山への

泊りがけの修業だった。近くのため池で泳いだなど次々と話題が広がりました。創立間もない高校は、生徒も教師も若くて元気。自由な雰囲気の中、まさしく「彼我一体」。55年前、自分たちが新しい学校を作るんだ、との気概を持って勉学に、遊びにと学校生活を満喫してみえた先輩方と石田理事長とのお話は、活気と個性に満ち溢れていた当時の状況を彷彿とさせる楽しい時間になりました。



【懐かしい思い出に話は尽きません】

学園アカト

女子ソフトボール部 創立3年目の奇跡～インカレ出場決定までの軌跡～ 星城大学

平成27年に6名の選手で創立し、翌年の平成28年度には18名の新1年生を迎え、県の大会に初参戦。

2部からのスタートでしたが、春の大会ですぐに1部昇格という快進撃。秋は入れ替え戦に苦しみましたが1部に残留。本年度の春の大会でも大活躍。

全日本大学選手権大会「インカレ」の予選となる、第14回東海地域大学男女ソフトボール部選手権大会にて4位入賞となり、創部2年目でのインカレ出場という快挙を成し遂げました。

女子ソフトボールのインカレ日程は、平成29年9月2日(土)から4日(月)まで、全国各地を勝ち上がった32チームにて広島県東広島市及び呉市にて開催されます。皆様の応援をよろしくお願いいたします。



【第14回東海地域大学男女ソフトボール部選手権大会にて4位入賞、インカレ出場決定後の集合写真】

祝！創立55周年記念～第2グラウンド人工芝化～・ICT活用 星城高等学校



【人工芝化した第2グラウンド】

星城高校では、創立55周年記念事業として、第2グラウンドの人工芝化を行いました。体育の授業をはじめ、各部活動においても素晴らしい環境が整いました。

また、各教室にプロジェクターを設置し、授業でのICT活用も始まっています。これらは、学習のねらいを示したり、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したり、とても有効に利用されています。



【タブレットを活用した授業】

さらに、生徒一人ひとりがタブレットを持ち、生徒同士が協働して学習する新しい学びのカタチをスタートさせています。このことにより、学習内容のより深い理解を促すことを目標に取り組んでいます。そして、3クラスが同時に利用できる本館5階の読書室には、大型のスクリーンを設置するなどICT機器を導入し、生徒の能動的学習(アクティブ・ラーニング)への意識を高める取り組みを始めています。

合い言葉は「始めよう。続けよう。できるまでやろう。」 星城中学校



【授業の様子】

創立25周年を迎える星城中学校では、本年度、「始めよう。続けよう。できるまでやろう。」を合い言葉に、主体的・対話的で深い学びの実現へと邁進しています。6月13日には、豊明市との包括協定のもと、豊明市内の小中学校の先生方を本校に迎えて、英語と理科の授業参観および研究協議を実施しました。授業研修の成果に止まらず、本校生徒が学びのステージの主役となって、主体的・対話的に学ぶ授業展開でその姿が発信でき、地元で愛される学校づくりを目指す大きな一歩となりました。



【全員集合～！】

こども動物園

星の城幼稚園



【エサを食べてね】

6月9日(金)、こども動物園が開催されました。「生命がかげがえのないことをいろいろな動物との触れ合いを通じて感じ、心に芽生えさせてほしい。」と園児の情操教育の一環として行われました。

飼育員の方から動物の紹介とふれあいの仕方などの話の後、早速ウサギやモルモットを抱っこしたり、ヒツジ、ヤギ、ロバ、カメなどと触れ合ったり、また、エサをあげたりして、普段できない体験をしました。

楽しい時間はあっという間に過ぎましたが、いろいろな動物に触れ、ぬくもりを感じたり、言葉で話ができない動物の様子を観察したりしてかかわることで愛着や思いやりの気持ちを持つことができた良い機会でした。



【カメの競争だよ】

後援会総会の開催

星城大学リハビリテーション学院



【後援会総会にて学院長からの挨拶】

5月13日(土)本学院にて、後援会の総会が開催されました。貝沼後援会長の任期満了に伴い、太田副会長の会長昇任と、平成28年度事業・決算報告及び平成29年度事業・予算案審議が行われました。保護者からは「教員には研修・講習会に積極的に参加していただき、その成果を学生に還元してほしい」との貴重で、かつ前向きなご意見を頂戴し、教育の質の向上に改めて教職員一同奮起させられました。

また、本学院の専任教員が、3年間の学生生活・教育方針・就職について講演を行い、最終目標である「国家試験合格」には、教職員と保護者の皆様のサポートがあってこそ実現するという事を改めて確認していただく良い機会になりました。



【カリキュラムについての講演】

平成28年度学園財務情報(決算の概要)

資金収支計算書

収入の部			支出の部		
科目	決算	比率	科目	決算	比率
学生生徒納付金収入	2,152,274	13.9%	人件費支出	2,234,481	14.4%
補助金収入	855,965	5.5%	教育研究経費支出	568,663	3.7%
前受金収入	431,107	2.8%	管理経費支出	250,295	1.6%
付随事業・収益事業収入	47,715	0.3%	施設関係支出	1,200,543	7.7%
手数料収入	106,089	0.7%	設備関係支出	106,779	0.7%
寄付金収入	29,550	0.2%	その他の支出	10,557,032	68.1%
その他の収入	11,245,922	72.5%			
前年度繰越支払資金	643,559	4.1%	翌年度繰越支払資金	594,388	3.8%
収入の部合計	15,512,181	100.0%	支出の部合計	15,512,181	100.0%

事業活動収支計算書

収入の部			支出の部		
科目	決算	比率	科目	決算	比率
学生生徒納付金	2,152,274	59.0%	人件費	2,267,066	68.4%
経常費等補助金	843,242	23.2%	教育研究経費	781,447	23.6%
付随事業・収益事業収入	47,715	1.3%	管理経費	263,371	7.9%
手数料	106,089	2.9%	その他	2,281	0.1%
寄付金	80,786	2.2%	事業活動支出の部合計	3,314,165	100.0%
その他	414,955	11.4%	基本金組入前当年度収支差額	330,896	-
事業活動収入の部合計	3,645,061	100.0%	基本金組入額合計	△224,681	-
			当年度収支差額	106,215	-

貸借対照表

資産の部			負債の部、純資産の部		
科目	本年度末	比率	科目	本年度末	比率
固定資産	19,214,005	95.7%	固定負債	1,417,897	7.1%
流動資産	867,274	4.3%	流動負債	860,490	4.3%
			基本金	17,437,170	86.8%
			繰越収支差額	365,722	1.8%
資産の部合計	20,081,279	100.0%	負債及び純資産の部合計	20,081,279	100.0%

●資金収支計算書は、その年度の学園の諸活動に対応する収入及び支出のすべて、並びにその年度における支払資金の収入及び支出の状況を明らかにするためのものです。そのため事業活動収支計算書とは異なり、次年度の収入となる前受金収入や、施設設備に関する支出及び借入金返済支出など資産・負債の振替、資金運用等についても計上されています。

●事業活動収支計算書は、収支の均衡の状態とその内容を明らかにすることによって、学園の経営状態を把握するためのものです。そのため、資産・負債の振替等に伴う収支などは除かれ、また退職給与引当繰入額、減価償却額、資産処分差額、現物給与等、資金の収支を伴わない金額が計算されたうえで年間収支をとらえています。

●貸借対照表は、平成29年3月31日現在の財務状況を示すものです。

総会開催



庭園の様子



桑山美術館
正面入口



6月29日(木)、桑山美術館において「星城懇話会総会」が開催されました。

桑山美術館は、名古屋市東部の閑静な住宅地に位置し、初代館長の桑山清一氏が永年にわたって収集した近代の日本画や鎌倉時代から現代にいたるまでの茶道具を所蔵する美術館です。

特に今回の展示では、「自然を写す 心を映す 日本画から一句」として日本の自然風景を数多く描いた川合玉堂の作品がまとめて展示され、詩情あふれる風景と共に風景の中に描かれた人々への温

かなまなざしを感じ取ることができました。

また、別館2階の立礼席では、出席者全員、星城大学文化大使で表千家宗匠の大棟俊一(宗俊)先生が点てられたお茶をお楽しみいただきました。

日本画の名品鑑賞に加え、大棟先生の点てられた美味しいお茶と、軽妙で洒落な会話に惹き込まれた、そんな珠玉のひと時を会員は過ごすことができました。



【お茶をお楽しみいただきました】

星城大学 平成29年度 第1回公開講演会 開催

京都大学元総長であり、国際高等研究所所長の長尾真先生をお迎えし、6月17日(土)に、平成29年度第1回公開講演会「AI(人工知能)時代の教育と働き方—高校、大学、社会—」を開催いたしました。

最近のニュースでも話題になったAIによる囲碁、将棋での名人との対局などを例に挙げながら、AIに関してわかりやすく説明される一方で、我々の生活に及ぼす悪影響への過度な危惧に対して戒め、「AIとは人間のためのものである」と指摘されました。

参加者の皆様からは、AIに関して理解ができたと同時に、AIがそもそも何のためにあるのかを再認識することができ、安心したとの声が上がりました。

今回は広い地域から、数百名の参加があり、AIへの関心の高さを感じました。また地域の会社から終了後にAIに関するご相談をいただいたり、参加された皆様にとって非常に有意義な時間となりました。



【講演される長尾先生】



学校法人
名古屋石田学園

〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel: 052-221-8921
Fax: 052-689-6003
URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>